

第2回目黒区みどりの基本計画懇話会 会議録

日 時	平成 27 年 8 月 7 日 (金) 午後 6 時 30 分から
出席者	<p>(委員)</p> <p>甲斐 徹郎 (関東学院大学客員教授)</p> <p>金子 忠一 (東京農業大学地域環境科学部造園科学科教授)</p> <p>澤田 みどり (恵泉女学園大学人間社会学部社会園芸学科准教授)</p> <p>岡田 音次郎 (目黒区農業振興運営協議会会長)</p> <p>熊澤 祐子 (碑文谷公園くらぶ代表)</p> <p>佐藤 留美 (N P O birth 事務局長)</p> <p>市田 淳子 (公募区民)</p> <p>豊田 恭子 (公募区民)</p> <p>宮尾 三郎 (公募区民)</p> <p>(オブザーバー)</p> <p>一言 太郎 (国土交通省都市局 まちづくり推進課)</p> <p>(事務局)</p> <p>目黒区</p>
場 所	目黒区総合庁舎本館 地下 1 階第 15 ・ 16 会議室
議 事	<p>1 開会</p> <p>(1) 傍聴について</p> <p>(2) 委員の出欠について</p> <p>(3) 配布資料の確認</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 会議録の確認</p> <p>事務局より第 1 回懇話会の会議録の内容について確認が行われた。修正事項は後日、各委員より事務局に連絡することとなった。</p> <p>(2) 課題のまとめについて</p> <p>事務局より資料 1、資料 2、資料 3-1、資料 3-2、資料 3-3 について説明が行われた。</p> <p>(3) 基本理念とみどりの将来像について</p> <p>(4) 改定計画の基本方針及び目標について</p> <p>事務局より資料 4、資料 5 について説明が行われた。</p>

(5) みどりのネットワーク形成方針について
支援事業者より資料6について説明が行われた。

(6) 議事内容のまとめ

委員 資料4に「まちの個性」という表現が用いられているが、これは曖昧な表現だと思う。目黒の森などは「目に見えるもの」のほかに、土地の高低や坂道、暗渠となっている河川、「富士見」とつく地名といった土地の特徴や植生などもまちの個性として捉えられるとよい。まちの個性を意識して、昔そこにあった植生や地形を意識した植栽を行ったりそれを基にしてみどりの散歩道の古くなった看板を作り直したりするなど、具体的なかたちが見えるとよい。

委員 「みどり」という言葉がたくさん使われていてよいと思うが、大きな夢を語っていて、実際にはどのくらいの予算でどう進めていくのかということが見えない。また、区民のことが見えてこない計画になるのではないかと感じた。前回の懇話会の意見でも「コミュニティ」や「区民」という言葉が多く出てきたが、区はハードの部分でやるべきこともあるが、どうやって区民を動かしていくかというところが見える計画になるとよい。

委員 また、区役所をもっと活用して、区役所に区民が来れるようになるとよい。現状はまだまだもったいない使い方だと感じる。例えば屋上が児童遊園になっていれば子連れの方は来やすくなるし、レイズドベッドのようなものがあれば、地域の高齢者施設と連携し学生のボランティアと一緒に管理を行うこともできる。市民をどう動かすかというところをもう一步提案の中に入れられるとよいのではないかと。

委員 資料はよくできていると思うが、現実として区内の人工地にみどりが少ないように感じる。天空庭園のようなものを建設する際に、どのようにみどりを創出していくか、それをどう支援していくかを考える必要があるのではないかと。

委員 公園に週1回以上行く人の割合が63%というのは多いと感じた。自身は自分の子どもと一緒になければ公園に行くことはほとんどなかったのが驚いている。夏の公園は蚊がいて困る。天空庭園のような公園が理想的である。汚くなっている砂場や薄暗いトイレのある児童遊園は、衛生面などに不安があり、かえって不要だと感じている。気楽に色々な世代の人が足を運べる公園だとよい。

委員 ボランティア等の「やりたい人たち」以外の人たちにリーチしていくことやみどりの価値を認識することを当たり前にしていくということが重要だと考えている。みどり行政については、苦情対応など難しい点があるが、そもそも全て行政が工夫して取り組むものという認識

	<p>自体が限界だと考えている。市民が自分のこととしてみどりをどう取り入れるかということの中で人づくりについて考えていく必要があるのではないか。</p> <p>市民の中には自身の生活の中ではみどりは必要ないと考えている人もいるが、そこに対して「市民一人ひとりの生活の質を向上させるためにみどりを活用すべきだ」ということを丁寧に伝えていく必要がある。そのためには色々な場面でみどりを使いたいと思わせる仕掛けが重要で、質を向上させることで「そこに居たくなる」という状況をみんなで作り上げていくことが大事であると考えている。また、利用の在り方についても、商業との関わりなども踏まえて、大胆に取り組むことを市民一人ひとりが考えていくことが必要だと考えている。</p> <p>いずれにしても、人の意識を変えていくというところを中心に据えていかないと、計画の内容も実態にそぐわずに終わってしまう。</p> <p>一人ひとりがみどりの担い手となるということに対して何をすることが資料に書かれていない。</p> <p>子どもの時から自然にふれる啓発的な取り組みを行い、自然の仕組みを教えないと、なぜみどりを育てることが必要かということが理解されないのではないか。また、こういった啓発的な活動は大人にも伝えていく必要があると感じている。講座を開催するなど、これまでみどりに関心のなかった人も少し話だけでも聞いてみようと思ってもらう機会をつくるために、各地区に花とみどりの学習館などを配置できるとよい。興味を持ったことを気軽に聞ける場所ができれば、区民の関心を高められるのではないかと。</p>
委員	<p>基本的な考えとしては、みどりのネットワークをつくる、拠点として公園を充実することが重要である。みどりのネットワークについては、身近なところで地域の人と接するために、公園から離れている人でも参加しやすい公共敷地から取り組みを広げていければ、個人の活動も促していけるのではないかと。緑地や緑道の少ない地域に向かって取り組みを広げること、「モデル地区」から広げていくことを考えていきたい。</p> <p>拠点としての公園については、みどりや自然にふれる機会の多い落ち着いた環境に加えて、地域とのつながりが感じられるということを考えるべきである。区民が身近なところでみどりのネットワーク化の取り組みを実践していければ、公園の拠点性や充実度が高まると考える。</p> <p>さらに、みどりのネットワークの実践を通じた人のネットワーク強化については、実践することが高齢者の活躍の場、いきがいの支援の場、児童の情操を育てる支援の場、区民の世代間交流の場になる。これは、区の上位計画と整合することが多いのではないかと。</p>

	<p>みどりの意義を広げることについては、人のネットワークを強化することで区の地域防災力や温暖化防止力が向上すると考えている。これは燃料消費の減少といった物理的な側面だけでなく、みどりに関わる人が照明や冷暖房を小まめに調節するなど、意識を高めることにもつながることだと考える。具体策として、モデル地区での実践を通して他の地域に取組みを広げていくことと、「みどりのネットワークアドバイザー」の設置を提案したい。みどりを育てる活動で困った時に気軽に相談できる人がいれば、取組みが継続しやすい環境になっていく。</p> <p>副座長 「一人ひとりが担い手となる」「みどりの価値を共有し、高める」「みどりの拠点の充実、活性化を図る」といったことをこれから進めていくべきだと日々感じている。その中で実際にそれをどのように実践していくかということが重要である。みどりの価値という表現がなんとなく使われており、環境や景観や生物多様性の保全、防災などと書かれているが、これからの新しい価値とは何かということをもっと見極めていく必要がある。今の区民は一体どのようなみどりを求めているのかということなどを明確に打ち出していく必要があるのではないかと。</p> <p>「多様化する公園への要望」という表現についてもどれだけ多様化しているかということを考えなければならない。自身の活動の中で、みどりの価値を市民みんなで引き出して作っていくことで、公園の管理者も気づかないことを考えつき、今まで公園に来なかった層が来るようになった事例がある。新たな価値をどのように引き出すかということはこれからの公園運営やみどり行政には必要である。担い手になりたい人、価値を一緒に引き出したい人、活性化に協力したい人が出てこない、いくら言っても机上の論理になってしまう。</p> <p>先ほど「みどりのネットワークアドバイザー」の設置が提案されたが、今後そういう仲介に入る人が必要になる。公園管理者も同様に考えている。コーディネーターがいることで価値が引き出されていくことが必要になる。</p> <p>成果目標については一般の方にもっとリーチしていくことや人口減少に対してみどりがあることで目黒区の人口が増えて、土地の資産価値も上がり税収も増えるといった攻めの姿勢が出るとよい。</p> <p>オブザーバー 資料3-2は、「ご意見への対応」のところで、どのような施策を実施してどのようなことを実現していくのかを具体的に示すことが重要である。</p> <p>資料4はまだ十分な整理ができていないように感じた。</p> <p>資料5の指標については、専門用語となるが、アウトプット指標では</p>
--	---

なく、アウトカム指標をどこまで掲げられるかを考えていかなければならない。一方で、公園の整備といったアウトプット指標を整理しながら、みどりをどうしていくのかということも考えなければならない。第1回懇話会でみどりを使うという話が多くの委員から挙げられ、私も都市計画マスタープランに出てくる「住みやすい街」「暮らしやすい街」「個性ある街」「自然と触れあえる街」という都市の全体像の中にみどりがどう入っていくのかということ整理する必要があると述べた。先ほど副座長が発言されたように、みどりが増えることによって地域の価値があがるというところまでどのように取り組むかを考えられるとよい。

資料6で、住宅地を「第一種低層住居専用地域」「第一種・第二種中高層住居専用地域」「第一種・第二種住居地域」の3種類をベースに、現況のみどりの分布を踏まえながら色分けをすることは非常に斬新で素晴らしい。ただ、「第一種低層住居専用地域」は保全、「第一種・第二種中高層住居専用地域」「第一種・第二種住居地域」は保全・創出という表現は、みどりを市民に広げると考えた時に「第一種低層住居専用地域」の住民が置いていかれるように感じるので、表現の再考が必要である。

みどりの軸については、図上の線をリアリティのある表現にする、断面図を作るなどしてもよいと感じた。みどりを使う部分については、公園を有効活用するという行政的なことと合わせて、民有地にモデル地区を設けるということもよいと思う。商業地の協力も得ながら重点的に支援するといったことをどこまで戦略的に掲げていけるかを第3回の懇話会で議論したい。

座長

基本方針、目標、指標とあり、みどり施策としてはよいと思うが、そうすることによって区民の生活がどうなるかという部分をしっかり考えて、区民の方がどう実感できるかということを議論していきたい。指標についても区民の方全員が実感できるものを設定していくことが重要ではないか。

4 第3回 目黒区みどりの基本計画懇話会の日程について

協議の結果、次回懇話会は9月30日(水)18時30分から20時30分までの開催となった。

5 閉会

以上